

令和5年度 学校評価実施報告書

学校名 (下鴨中 学校)

教育目標	
「自ら考え、自ら律し、共に行動できる生徒の育成」	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 全校集会等でこの教育目標に触れたこともあり、生徒だけでなく、教職員にも目標の文言自体は浸透したように感じる。 行事等で、生徒の様子をみる限りでは、目標達成に向けて努力している生徒が多いようには感じる。より確実な目標達成のため、来年度も継続してこの目標をかかげ、生徒だけでなく教職員にも徹底したいと考える。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 年度当初にも説明を聞いたが、わかりやすく良い目標であるとのことである。特に「共に行動できる」は大人になり、社会に出ても役立つことである。将来、地域を背負って立ってもらうことになるので、地域行事が徐々に緩和・再開される中で、学校の中でだけでなく、地域としても一緒にできるようにやっていきたいと思う。 ただ、来年度の薬物乱用は、左京区の保護司不足で講演するのは厳しいと思う。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年9月29日	学校運営協議会
最終評価	令和6年3月1日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得 (2) 論理的思考力・判断力・表現力の育成 (3) 授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの創出 (4) 家庭学習の習慣づけを図り、自主的・計画的な学習態度の育成
具体的な取組
①教師を含む、学習規律の徹底 ②ICT 機器や GIGA 端末等を活用し、「わかる」授業・「できる」授業・「楽しい」授業に向けた授業改善 ③ユニバーサルデザインを踏まえた、わかりやすい授業展開 ④学習のめあて（本時の目標）の明確化と振り返りの設定 ⑤言語活動の充実と協働的な学習の手法を取り入れた主体的・対話的で深い学びの時間の設定 ⑥3観点の見取りの明確化を授業改善に生かすため、目標と指導と評価の一体化 ⑦学習習慣の確立と家庭学習の充実 ⑧ティームティーチングによる授業を通して、個に応じたきめ細やかな指導

⑨学校図書館の活用を通じた主体的な学習活動や読書活動の充実 ⑩校内研修の充実と互いに学び合い、自己研鑽を積む教職員集団作り ⑪朝読書による読解力、語彙力、表現力の育成 ⑫テスト前学習相談、放課後学習、夏季休業中の学習相談会等による学習支援 ⑬教科間、教科と行事間のマネジメントによるより効果的な教育活動の展開
(取組結果を検証する) 各種指標 ・学力状況調査の結果 ・学習確認プログラム ・学校評価アンケート

中間評価

自己評価	各種指標結果 ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 「授業はわかりやすく、工夫されている」…95.1% 「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」…93.8% ・学力状況調査（生徒質問紙） 「1・2年生のときに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」という質問に「ほぼ毎日」という回答において全国が28.1%、京都府が41.9%に対して下鴨中学校は62.6%
	分析（成果と課題） 「授業はわかりやすく、工夫されている」「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」のどちらの項目も、昨年度よりもさらに高い割合になっている。授業の初めに「本時の目標」を提示していることが、「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」という項目での評価の高さに繋がっていると考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善 ICTの活用率は高いが、授業の目標を達成するためのICT活用になっているか、ICTを使うことが目的になっていないか、教員が振り返る機会が必要だと考える。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 学校評価アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 生徒が楽しく、しかもわかりやすい授業が行われていることがよく分かる。 GIGA端末を使った授業の推進もはかれているようなので、昨年度より数値があがったのではと考えられる。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 「授業はわかりやすく、工夫されている」…95% 「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」…91% 「授業では、話し合いの活動が取り入れられ、意見や発表する場がある」…96% 「授業は集中して聞き、意欲的に取り組んでいる」…93% 「家庭学習に毎日進んで取り組んでいる」…71%
--

自己評価	<p><u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u></p> <p>授業の最初に本字の目標を提示し、それを理解して生徒が授業に臨んでいるため、「毎時間の授業において、学習のねらいが理解できている」という項目の評価の高さを維持していると考えられる。「授業はわかりやすく、工夫されている」という項目の評価の高さから、生徒が授業を肯定的に捉えており、「わかる授業」・「できる」授業の実践ができているのではないかと考えられる。また、「授業は集中して聞き、意欲的に取り組んでいる」「授業では、話し合いの活動が取り入れられ、意見や発表する場がある」の項目の評価の高さからも、生徒は主体的に取り組み、対話的な授業が実践されていると考えられる。しかし、家庭学習の習慣づけには課題が見られる結果になった。</p>
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>「授業では、話し合いの活動が取り入れられ、意見や発表する場がある」の項目では、「そう思う」が 56%、「だいたいそう思う」が 40%と、半数以上の生徒が「そう思う」を選択しているほど評価が高い。多くの授業で話し合い活動が取り入れられているが、よりよい授業を目指して、その「話し合い」が効果的な「対話」になっているか、「深い学び」に繋がっているか、考える機会が必要だと考える。また、家庭学習の定着にはまだ課題が見られるので、タブレットドリルなどを有効活用し、自主的・計画的な学習態度の育成を図りたい。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>授業力や学力向上という点において、素晴らしい結果を出されていることに興味している。授業の様子を見させていただいても、子ども達が意欲的に活動している場面が見受けられた。GIGA 端末の使用もかなり進んでいるように感じる。</p>

（２）「豊かな心」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p> <p>（１）命を大切にし、自分も仲間も大切にし、大切にされているという実感が持てる心や態度の育成 （２）自分の過ちに気づき、公平・公正を重んじる心の育成 （３）よりよく生きようとする豊かな人間性の育成</p>
<p><u>具体的な取組</u></p> <p>①<u>教職員の人権問題に対する感覚を磨くとともに、認識や理解の深化</u> ②<u>人権学習の計画的な実施や、あらゆる教育活動の中で生徒の人権意識を高める取組み</u> ③年間３５時間以上の道徳授業の実施と評価の確立と全校教職員で取り組む道徳教育 ④道徳副読本・私たちの道徳の効果的な活用と創意工夫を生かした授業 ⑤部活動・生徒会活動の充実を図り、日常のあらゆる場面で、生徒の心を耕す指導 ⑥<u>人権を尊重し、いじめや暴力を許さない学級集団づくり</u> ⑦一人ひとりの生徒を大切にする学級・学年経営</p>
<p><u>（取組結果を検証する）各種指標</u></p> <p>・学力状況調査の結果 ・学習確認プログラム ・学校評価アンケート ・いじめアンケート ・クラスマネージメントシート</p>

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 「他者を思いやるなど相手の立場になって物事を考え、行動できている」…97.3% 「道徳の授業ではよりよい生き方について考えることができている」…95.7% 「先生は相談事や悩み事に意欲的に応じてくれる」…94.1% ・学力状況調査（生徒質問紙）の「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」 「人が困っているときは、進んで助けていますか」…87.1% 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」…96.4% 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」…84.2% 	
自己評価	分析（成果と課題） 道徳や人権学習だけではなく、日々の学校生活での指導により、他者を思いやる心を育むことができているのではないかと考えられる。学力状況調査（生徒質問紙）の結果については、「どちらかといえば、当てはまる」を選択している生徒は全国と比べ10%近く高いのに対し、「当てはまる」を選択している生徒の割合は低い。この傾向は多くの項目で見られる。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の割合が低いことから、自信のなかったり、行動に移すことに躊躇してしまったりする様子がうかがえるので、生徒の自己肯定感を高め、自信をつける取組を行っていききたい。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒1人ひとりと向き合うことに多くの時間が取れない現状があるが、その中でも、1人ひとりの生徒と向き合う機会を増やし、生徒の内面に迫れるよう、よりよい関係を築いていきたい。生徒の良いところを教員が積極的に発信し、今以上に生徒が「自分たちのよさが認められている」と思えるように取り組んでいきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 学校評価アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 教員の皆さんが道徳の授業をしっかりと行われていることが分かった。 道徳や人権を通して、よりよい人間形成を期待しているし、是非自己肯定感が高められるようなアプローチをお願いします。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（生徒・12月）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 「他者を思いやるなど相手の立場になって物事を考え、行動できている」…97% 「道徳の授業ではよりよい生き方について考えることができている」…96% ・いじめアンケートの「はい」 「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」…7月11名→12月6名 「友だちがいじめられているのを見たことがありますか」…7月5名→12月0名 	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 アンケート結果を見る限り、指導の結果が出ているのではないかと考える。いじめアンケートの「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」で「はい」と答えている数が多いのは、昨年度から継続し1年生であり、小学校からの人間関係を引きずっていることがある

	<p>ように感じられる。しかし、未然防止の取り組み、早期発見や細やかな対応等、日々の学校生活の中での様々な指導によって、いじめの件数が激減ではないが減っているとも思うので、さらに進めたいと考える。目標は、ある面では達成できたのかもしれないが、昨今の時代の大きな変化に合わせて、教員のさらなる人権感覚を研ぎ澄ます必要があるように感じる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>外部の講師を招くなどし、校内研修だけでなく、時代の変化に応じた人権感覚を養うことによって、それが生徒にも反映されるようにしたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>人権意識が高まっているのは嬉しい。いじめ問題がどうなっているか気になっていたが、チームとして取り組んでいただいていることをお聞きして、安心した。</p> <p>今後ともよろしく願いたい。</p>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>(1) 保健体育や部活動等を通して、自らの健康や安全を管理し、生活を改善する力の育成</p> <p>(2) 心身の健康を維持し、たくましく生きるための力の育成</p>
<p>具体的な取組</p> <p>①保健だよりの活用等による「早寝・早起き・朝ごはん」を基本とした生活習慣の確立の促進</p> <p>②「食事・運動・休養・睡眠」をバランスよく取り入れた生活習慣の確立が心身の健康のみならず学習意欲の向上にもつながることを理解していただくための保護者への働きかけ</p> <p>③保健体育や保健指導・学級指導を通じて、組織的・計画的な「心の教育」の推進</p> <p>④家庭科と連携を図った食育の充実</p> <p>⑤生徒に正しい知識を身に付けさせるための薬物乱用防止教室や防煙教室の実施等による保健教育の充実</p> <p>⑥体育の授業や部活動の充実を図り、運動能力や体力の向上を促進するとともに、運動やスポーツを通して達成感や成就感を味わう豊かな人間性の育成</p> <p>⑦避難訓練等を含む安全指導の充実を図り、防災や安全に関する知識や技能を身につけさせるとともに、生徒の家庭・地域での役割の理解の深化</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>・生活状況調査や毎朝の健康観察の結果 ・委員会活動の実施状況 ・運動部活動への加入率</p> <p>・安全や健康に関する取組の実施状況 ・体力テストの結果 ・学校評価アンケート</p>

中間評価

各種指標結果	
・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」 『早寝・早起き・朝ごはん』やバランスの取れた『食事・運動・休養・睡眠』など、しっかりと生活を送れている」… 84.6%（R4年度 81.2%） ・運動部活動への加入率… 62.3% ※文化部加入率… 20.5%	
自己	分析（成果と課題）
	・生徒のアンケートでは8割以上が、規則正しい生活習慣ができていると回答した。一方、体調不良

評価	を訴えて来室する生徒への聞き取りでは、寝る時間が深夜１２時を回っている生徒が多い。 ・運動部への加入率は今年度も６割を超え、昼休みに運動場で遊んでいる生徒も多く、体育の授業以外でも運動ができている生徒が多いのではないかと考える。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> ・規則正しい生活リズムや運動習慣が心身の健康につながっていることを発信していけるよう、委員会活動や学校保健委員会を活かしていきたい。
	<u>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</u> ・生活状況調査や毎朝の健康観察の結果　・安全や健康に関する取組の実施状況 ・体力テストの結果　・学校評価アンケート
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> 子どもたちの生活を聞いていると、部活動の後や休日でも塾や習い事を遅くまで頑張っている生徒が多い。そのため、自分のやりたいことができる自由な時間が寝る前の時間しかなく、就寝時間が遅くなっている生徒も多い。規則正しい生活の大切さを発信するだけでなく、ゆとりをもてる枠組みを作っていくことも必要だと感じる。

最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div>						
・体力テストの総合評価の「A」						
	1 年		2 年		3 年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
本 校	1 . 8 %	4 6 . 3 %	0 %	1 7 . 4 %	2 0 %	2 6 . 6 %
・学校評価アンケート（生徒・1 2 月）の「そう思う」・「だいたいそう思う」						
『早寝・早起き・朝ごはん』やバランスの取れた『食事・運動・休養・睡眠』など、しっかりと生活を送れている」…8 2 . 7 %						
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>					
	体力テストの結果から、本校の傾向として男子より女子の方が体力・運動能力が高い傾向があると言える。また、1 年生の女子の数値に関しては学年の約半数が「A」であり、京都市の平均よりも非常に高い。一方で、2 年生男子が「A」が0 %など、学年ごとに大きな違いがあることが課題と考える。生活習慣も前回とほぼ変わらず、8 割を超えているため、概ね確立されていると推測される。そのことから、ある程度、目標が達成されたと考える。1 年が体力的に低いことについては、小中連携の課題と考える。					
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>					
	次年度も「1 校1 プラン」を活用し、1 年生を筆頭に体力の底上げを図る。また、基本的な生活習慣については、保護者とも連携を図れるような、「食に関する講演」などの取組を実施したい。					
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>					
	コロナ禍が一定落ち着き、体育大会等、見させていただくのが大変嬉しい。 何事にも一生懸命取り組む姿はほんとに見ていて気持ちがいい。					

(4) 学校独自の取組

重点目標
カリキュラムマネジメントを活用し、今までの総合的な学習の時間・道徳・特別活動・学校行事・委員会活動・部活動等の整理
具体的な取組
学習発表の取組（合唱コンクール、体育大会、修学旅行取組を含む）に対する状況確認と点検・整理
（取組結果を検証する）各種指標
・各取組の振り返り ・学校評価アンケート ・年度末反省

中間評価

各種指標結果
ある程度、整理しながら進めてはいるものの、9月以降に取り組みが集中しているので、精選する必要がある。
自己評価
分析（成果と課題）
学校行事がコロナ禍前に戻ってきている。下校時間を早めるなど工夫はしたものの、行事や取り組み日程等に圧迫がある。特に縦割り体育大会の負担が大きい。
分析を踏まえた取組の改善
従来に戻すのではなく、新しいやり方・取り組みをもっと模索することが必要であったにも関わらず、具体的な話し合いができていなかったので、行事が終わり次第、振り返りを行い、来年度の方針をたてていく必要がある。
（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
・各取組の振り返り ・学校評価アンケート ・年度末反省
学校関係者評価
学校関係者による意見・支援策
伝統は残しつつ、やり方を変えるなど積極的な改革をお願いしたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果
9月：定期テスト、合唱コンクール
10月：体育大会、支部授業研究、教育相談（1，2年生）、進路検討会・懇談会（3年生）
11月：生徒会立会演説会、生徒会新旧引継、華道体験・チャレンジ体験（2年生）、定期テスト
12月：進路検討会（3年生）、懇談会
・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
「学校行事は楽しく充実したものになっている」…95%
「学校生活は楽しく送れている」…95%
自己評価
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校行事がコロナ禍以前のように戻り、学校評価アンケートの結果からも、生徒は学校行事を充実したものに感じている。「学校行事は楽しく充実したものになっている」と「学校生活は楽しく送れている」という項目の評価の割合が似ていて、どちらも「そう思う」と答えた生徒が65%と高い評価になっている。このことから「学校行事の充実」が「学校生活の楽しさ」に繋がって

	<p>いるとも考えられる。しかし、働き方改革の観点からも行事や取組の精選や方法を考える必要がある。生徒の充実感を損なわないことも考慮しながら考えていきたい。部活動については、年度当初に2つの部活動を合併し、委員会活動についても、生徒総会、試行期間、生徒アンケートを経て、2つの委員会を1つに合併することで、教員の人員不足の解消を図った。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>生徒総会で、毎年「学年を超えた交流がしたい」と要望があがっているので、体育大会の縦割り種目を継続するなら、総合的な学習の時間で年度当初から縦割りでの活動を取り入れ、体育大会前の日程の圧迫感と負担を少しでも解消したい。生徒の充実感を損なわないよう、しかし、過度の負担や圧迫感のないよう、バランスを考えて総合的な学習の時間・道徳・特別活動・学校行事・委員会活動・部活動等の整理を行っていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍があけ、行事がさかんになっている様子が嬉しく思う。</p> <p>縦割りも大事かもしれないが、準備等大変でするので、働く時間との兼ね合いも考えて無理のないようにして欲しい。生徒の充実感が得られるような取組は是非お願いしたい。</p>

（５）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員一人ひとりがいきいきとした姿で子どもと向き合い、心豊かな生活を送る時間を確保する。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を精選する。 ・会議を精選、効率化する。 ・電話対応時間を午後6時30分までとし、以降は留守番電話に切り替える。 ・働き方改革に関する研修を行う。 ・校内OJTを通じて若手教員を重点的に支援する体制を整える。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率 ・若手教員を対象とした校内研修の実施回数

中間評価

各種指標結果						
出退勤システムによると						
4月…100時間以上が1名、80時間以上が0名、45時間以上が20名						
5月… " 1名、 " 5名、 " 19名						
6月… " 1名、 " 1名、 " 16名						
7月… " 0名、 " 0名、 " 8名						
9月… " 0名、 " 0名、 " 13名						
自己評価	分析（成果と課題）					
	校務支援員の活用で一定の効果があった。しかし、様々な行事が精選されず、コロナ渦前と変わらない状況にある。夏休み明けは定期テスト、合唱コン、体育大会、部活の新人戦と行事が集中					

も見逃さず、「速やかに」・「粘り強く」指導する体制づくりをし、「見逃しのない観察」・「手遅れのない対応」・「心の通った指導」を実践する。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

（取組結果を検証する）各種指標

- ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
（※教職員アンケートの項目として設定し、意識調査を実施すること）
- ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。
- ③いじめに係る既存の「学校評価：児童生徒アンケート項目」を活用する。
・項目「学校に楽しく通うことができますか」
- ④児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
（※教職員アンケートの項目として設定し、意識調査を実施すること）
- ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ① 「学校のいじめ防止等基本方針の内容を理解し、対策委員のメンバーを知っている」の項目(学校評価(教職員))に関して、肯定的な回答が72%であった。
- ② 始業式で2、3年生に周知し、入学式で1年生とその保護者に対面で紹介した。
- ③ ・学校評価アンケート（生徒）の「そう思う」・「だいたいそう思う」
「いじめは絶対に許さないという意識を持っている」…96.5%
「学級・学年の友達や部活動の先輩や後輩とも仲良くできている」…94.3%
「学校に楽しく通うことができますか」…96.0%
・学力状況調査（生徒質問紙）の「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」…97.1%
- ④ 生徒指導部会・不登校対策委員会を定期的実施し、相談内容の共有を図った。
- ⑤ 学校運営協議会(11月)にて説明・周知した。

自己評価

分析（成果と課題）

いじめを許さない意識は高いが、数%の生徒がそうでないことがわかり、なぜそうなのかを内面から分析し、対応すべきと考える。

分析を踏まえた取組の改善

日々の生活の中で心温かい人間関係づくりを目指した取り組みを実践する、アセスメント（見立て）の重要性を認識し、児童生徒理解に努める。道徳や人権の授業でもいじめに関わる内容を取り上げて、改善したい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・いじめアンケート ・学校評価アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

一人ひとり丁寧に対応してくださっていると思う。いろいろ抱えている生徒もいるので、引き続き、生徒と人間関係構築をはかってほしい。

最終評価

<div> <div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <div> <div>① 「学校のいじめ防止等基本方針の内容を理解し、対策委員のメンバーを知っている」の項目(学校評価(教職員))に関して、肯定的な回答が、7月72% → 12月80%と増加した。</div> <div> <div>③ 学校評価アンケート(生徒・12月)の「そう思う」・「だいたいそう思う」</div> <div>「いじめは絶対に許さないという意識を持っている」…98%</div> <div>「学級・学年の友達や部活動の先輩や後輩とも仲良くできている」…93%</div> <div>「学校生活は楽しく送れている」…95%</div> <div>・いじめアンケートの「はい」</div> <div>「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」…7月11名→12月6名</div> <div>「友だちがいじめられているのを見たことがありますか」…7月5名→12月0名</div> </div> </div> </div>	
自己評価	<div> <div>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div> 学校評価アンケート結果から、生徒のほとんどが「いじめは絶対に許さない」という意識を持てていること。また、いじめアンケートの結果からも、7月時よりも「友だちからされたことで、いやな思いをしたことがありますか」の数は11名→6名と半数ほどに減少し、「友だちがいじめられているのを見たことがありますか」に至っては「0」名であり、中間評価で改善にあげた様々な取り組みや指導の成果が表れていると思われる。 </div> <div> いじめの内容に関してはSNS等におけるトラブルなどが多い傾向があるので、非行防止教室やスマホ・ケータイ安全教室なども活用しつつ、いじめ件数「0」となるようにさらに取り組んでいきたい。 </div> </div>
	<div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div> ・いじめアンケート ・学校評価アンケート </div> </div>
学校関係者評価	<div> <div>学校関係者による意見・支援策</div> <div> 対策委員のメンバーを知らないという数値が他の項目に比べて多いのは残念だけど、先ほども挙げたが、いじめに対して絶対に許さない気持ちで生徒も含め、学校全体が動いているのは心強い。これからもお願いしたい。 </div> </div>